

◆【御船印めぐりの旅】－ ハートランドフェリー株式会社 －

## カランセ奥尻に乗船 維新の歴史息づく町・江差と幻の花咲く島・奥尻島を訪ねて

北海道江差町と奥尻町を2時間10分で結ぶ、ハートランドフェリー株式会社が運航する「カランセ奥尻」。先代の「アヴローラおくしり」の後継として、2017年に就航した。

「カランセ奥尻」は大幅にサイズアップされ、バリアフリー船として島民の生活には欠かせない移動手段となっている。船名は奥尻島固有種である幻の花「オクシリエビネ(学名: Calanthe)」に由来する。船体はオクシリエビネをイメージした紫色のラインを描いており、幻の花をイメージさせる可憐なデザインとなっている。

### 北前船の交易と維新の風薫る街・江差

江差は、江戸時代から明治時代にかけて、北前船の交易によって栄えた町である。旧暦の5月頃には北前船が本州から江差を訪れニシンの加工品を買い求めたという。「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほど、にぎやかであった。

北前船の交易による繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く連綿と息づいている。

### 豊富な海産物と雄大な景色

奥尻島は北海道南西部の日本海上に浮かぶ島で、特産物のウニやサクラ貝、アワビなどが有名である。特にウニは、朝獲りされた新鮮なものを加工し、道内や本州に向けて出荷している。島内には鍋釣岩をはじめとした景観スポットも多数存在し、雄大な自然と触れ合うことができる。

### 魅力的な季節のイベントが盛りだくさん

奥尻島では毎年6月に奥尻ムーンライトマラソンが開催され、大会前日にはアワビやウニなど島内で獲れた海産物が参加者に振る舞われる。

また、近年のサイクリングブームから、サイクリング目的で島を訪れる観光客も増えている。愛車を島に持ち込んで島を巡るのもおすすめだ。奥尻町では自転車のレンタルも行っている。

### 奥尻島津波館 津波による被害を後世に伝える

1993年7月12日に起きた北海道南西沖地震により発生した大津波は、本島を飲み込み甚大な被害をもたらした。地震の規模はマグニチュード7・8で、日本海側で発生した地震としては近代以降最大であった。

島民は島を襲った災害の「記憶」、そして経験と反省から得た防災への「教訓」を後世に語り継いでいく取り組みを行っている。

### 幻の花・オクシリエビネ

奥尻島には固有種のオクシリエビネが自生しており、幻の花を求めて8月中旬頃には、島外から多くの観光客が訪れる。その他にも多くの花々が訪れる人を魅了する。

### 離島を楽しむ島時間

はじめて訪れる奥尻島をしっかりと楽しみたいなら、少なくとも3日間は必要だ。

初日は、島の空気を胸いっぱい吸い込んで、目に飛び込む自然景観に驚き、島の味覚を堪能する時間にあてたい。

2日目は、島のあちこちにある奇岩や絶景といった島の魅力を探訪するのがおススメだ。西海岸に沈む夕日をじっと見つめて、長い時を過ごすのも「正しい」島の楽しみ方。お気に入りの場

所が見つかるのもこの頃のはず。

そして最終の3日目、早起きをして海岸線をぶらぶらと散歩してみる。

地元の人が笑顔で、はたまたぶっきらぼうに「うまいもんは、食ったのが」と声をかけてくるかもしれない。

そんな何気ない会話を体験してこそ、奥尻のほんとうの魅力に触れたと言えるだろう。

奥尻に来たなら「離島」で過ごす時間を積極的に楽しんでいただきたい。

### **鍋釣岩(なべつるいわ)**

東部にある奇石で奥尻島のシンボルでもある。高さは約 19.5 メートル。ドーナツ型で鍋の弦に形が似ていることが名前の由来となっている。夜間にはライトアップもされる人気スポット。

### **御船印**

一般社団法人日本旅客船協会の公認事業である「御船印めぐりプロジェクト」では、参加会社の船や航路ごとに発行するさまざまな御船印を集めることができる。

御船印とは、神社仏閣めぐりで集められる御朱印の船バージョンで、日本各地の船をめぐる船旅の楽しみをさらに盛り上げるため、プロジェクトに参加する船会社のオリジナルの御船印帳・御船印紙を購入し、旅客船や観光船などに乗船した際、船旅の思い出を彩る記念の押印（スタンプ）をいただくもの。

「海員だより」